

所属： 医学部・医学系研究科・附属病院 生命医科学専攻
基礎医学系講座 発生再生医学

教授 成田 正明
(なりた まさあき)

講師・大河原 剛 (おおかわら たけし)

助教・江藤 みちる(えとう みちる)

カテゴリ) 環境・エネルギー、医学・薬学

- 《一言アピール》
- 小児心療内科(三重大学病院、桑名市西医療センター、紀南病院)
 - 解体新書の原著、「ターヘルアトミア」所蔵!
 - 新物質マンセリンを発見、がんとの関連を明らかに

研究テーマ

Research Themes

- 自己肯定感と生活リズム
- 小児心療内科領域の基礎と臨床
- ターヘルアトミアと現在の解剖学



2015年8月20日 解体新書の原著公開
江戸時代に杉田玄白らが翻訳した医学書「解体新書」の原著「ターヘル・アトミア」のラテン語版を公開した。

報道

- 世界初 自閉症と聴覚過敏の併発メカニズムの解明及び、自閉症を見分ける新たな診断方法
<http://www.mie-u.ac.jp/R-navi/release/cat574/post-6.html>
- 「解体新書」の原著公開 2015年8月20日 (参考：中日新聞(2015年8月21日))
- 記者会見「妊娠中のウイルス感染と生後の情動」2014年6月6日
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2014/06/post-876.html>
- 三重テレビ「とってもワクドキ」“新物質マンセリンとは?”2013年9月9日
- 中日新聞「神経ペプチド新種発見」2013年8月2日
- AERA 「働く夫婦カンケイ」2013年2月18日
- 中日新聞三重版 「あの人に聞いてみよう・発達障害」2013年1月6日
- NHKテレビ視点論点「化学物質ホルムアルデヒドと健康」2012年6月15日
- NHKテレビ視点論点「乳幼児突然死の予防に向けて」2012年1月23日
- 中日新聞「妊婦の有機水銀摂取」に関する記事2011年9月17日
- NHKテレビ視点論点「妊娠中の環境放射線と子どもの発達」2011年6月23日
- NHKテレビ視点論点「妊娠中の化学物質と子どもの発達」2010年9月21日
- 中日新聞研究室発「発達障害の原因を探る」2010年6月15日

社会活動

- 診療活動として三重大学病院、桑名市西医療センター、紀南病院で、「小児心療内科」を担当
- 日本小児神経学会認定小児神経専門医、日本小児科学会認定小児科専門医
- 日本疲労学会評議員
- 日本SIDS学会理事・評議員
- 児童相談所嘱託医
- 日本小児神経学会評議員
- 三重県難病医療審議会委員

論文

- 「妊娠中のウイルス感染は児の脳に影響を与える Brain and Development 2015; 37:88-93
(次ページにつづく)

関連ホームページ

- 三重大学大学院医学系研究科ゲノム発生再生医学講座発生再生医学研究分野
http://www.medic.mie-u.ac.jp/develop_regener/
- 三重大学教員紹介
<http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/1467.html>

☆詳細は、HPをご覧ください。

論文 つづき

- 「自閉症の動物モデル—胎生期の化学物質ばく露による情動・認知行動への影響解明のための動物モデル」
認知神経科学 13(1), 54-58, 2011
- 自閉症モデル動物ではヒト自閉症に似た行動を示した Neuroscience Research, 2010; 66; 2-6
- 乳幼児突然死症候群発症にかかわる遺伝子を世界で初めて発見 Pediatrics 2001; 107: 690-

講演実績

- 参議院議員会館にての講演 「妊娠中の環境放射線と子どもの成長」2011年7月1日

特許

- 特開2005-124565 新規神経ペプチド及びその利用
- 特開2005-013147 慢性疲労症候群罹患リスクの予測方法

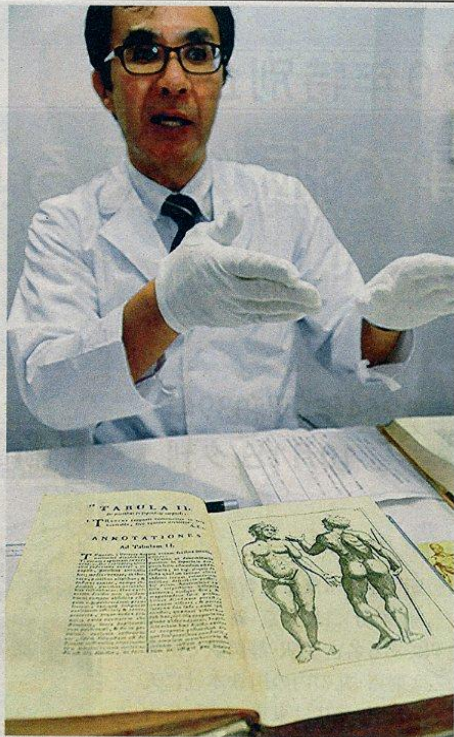
応用分野

- 新規神経ペプチドによる創薬・癌診断への応用
- 自閉症モデル動物解明結果からの自閉症研究
- 乳幼児突然死症候群の遺伝的因子

主な保有機器・装置

- 脳活動測定装置(近赤外線酸素モニター)

(第3種郵便物認可)



成田正明教授が公開した「ターヘルアナトミア」のラテン語版(津市の三重大)

江戸時代の蘭方医杉田玄白(一七三三—一八一七年)らが翻訳して出版した医学書「解体新書」の原本「ターヘルアナトミア」が二十日、津市の三重大で一日限定で一般公開された。現代の医学書にも劣らない精密な人体図が、訪れた人の興味をかき立てた。

(池内琢)

色あせない解剖の礎

三重大「解体新書」の原本公開

公開されたのは、一七四八年刊のターヘルアナトミアのラテン語訳第二版。三重大医学部の成田正明教授(五十四)が昨年、東京の古書店で購入した私蔵品だ。「この時代の解剖ターヘルアナトミアはもともと、ドイツ人医師クルムスが一七二二年にドイツ語で著した。その後、オランダ語やラテン語などに翻訳された。杉田玄白はオランダ語版から翻訳し、「解体新書」として刊行した。

ラテン語版は二百十五頁。表紙の文字は赤色で、解剖された人の内臓や、骨などを詳細な図解で表している」と話した。

死後すぐに解剖して長く伸びた状態で描かれている。成田教授によると、現代の解剖実習では献体をホルマリンで保存するため、ぼうぼうは収縮するといふ。「この時代の解剖でないと分からないこととで、学ぶことも多い」と解説する。

この日の見学会には、医学関連の大学関係者が参加。医学部の赤堀泰講師(五十)は「内臓などの図の精密さに非常に感銘を受けた」と興奮した様子だった。成田教授は「医療事故を防ぐためにも解剖は大事。授業でもターヘルアナトミアの功績を学生に伝えたい」と話した。



医学部1階人体模型展示室にもお越しください



2017年3月記者会見
 自閉症の聴覚過敏の原因を解明
 毎日新聞25面(中北勢) 2017年3月14日

☆詳細は、HPをご覧ください。